

部活と就活「私の場合」



Rina Namikawa

生井沢玲奈

中央学院大学

法学部
スポーツシステムコース



十和運送株式会社（茨城県）



裏方一筋7年 マネジャー採用で 就職



忘れられない思い出は「選手じゃないのに試合前の練習で骨折したこと」

3月、早春の体育館で40人の女子バレーボール部員たちが4年生を囲んで謝恩会を行った。大柄な選手たちに混じって、身長160cmほどのひと際小さな彼女が花束を片手に、満足そうな笑みを浮かべながら記念写真に納まっていた。生井沢の進路は茨城県つくばみらい市に本社がある物流会社。3年ほど前に男子バレーボール部を立ち上げ、将来のVリーグをも見据える会社に「女子マネジャー」として就職したのだ。チームの歴史は浅いが、今後の成長のために裏方も強化しようという方針の下で採用が決まった。

茨城県行方市出身。県立麻生高校では、強豪校として伝統のあるハンドボール部のマネジャーになった。最初はルールもわからず苦労したが、根っからの「お世話好き」が性に合っていたのか、たった一人で3年間お世話係を全うした。「将来スポーツ関係の

仕事に就きたい」と、文系大学ながらスポーツシステムコースがある中央学院大に進学した。「高校でマネジャーは一区切り」と決めていたが、たまたま4年生が卒業して不在となっている話を聞いたことで「心に火がついた」。再び経験のない競技でマネジャーに挑戦することになる。ルールもろくに知らなかったが、彼女の努力はやがてチームに必要不可欠な「戦力」となった。昨年秋の中国遠征の際には、スタッフ、部員全員の渡航準備や旅行会社との調整など一手に担当し、事故もなく無事に旅程を終えることができた。4年間で一番の充実感だった。

3年生の就活シーズンに、大学の男子先輩選手も所属している同社からマネジャーとして入社しないか、との誘いを受けた。元々は公務員志向だったので迷ったが、挑戦することに決め



小さな身体でも、仕事をやり抜くパワーは人並み以上

た。大学での4年間、毎日自宅の行方市と土浦駅を車で往復送迎してくれた母親からも、「向いているよ」と背中を押され決心。この春からは自宅を出て初めての一人暮らしをスタートさせた。「一度決めたことはやり遂げるのが自分の長所」ときっぱり言っている芯の強さは、社会人になっても武器となるだろう。